

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

うまれ、まず本学ゆかりの古書古品の収集をはじめたのでありました。それは公文書館（古文書館）兼歴史博物館であります。この室の源流と組織としての創出につきましては、「図書館学研究報告19」に「東北大学記念資料室の発足」と題し

て書きましたので、そちらを御参考下さい。

東北大学附属図書館と、そこに働く館員の皆様、そこに集まる利用者の皆様の御隆運を祈り、御幸福を願って、おわかれの詞とします。長い間ありがとうございました。

本館利用規則の改正について

現行の本館利用規則は昭和49年に制定されたものですが、その後数年を経て、利用の実態に即して規則を見直すべきではないかという気運が高まったため、昭和56年附属図書館長の諮問機関として、「附属図書館本館利用規則改正に関する検討小委員会」（以下「検討小委員会」という。）（委員長：菊田文学部教授）が設置されました。

この検討小委員会では、図書館資料の利用のあり方に関する基本的問題について審議を重ねてきましたが、昭和60年度に到って図書館の電算化が目前の課題として浮上したため、これに対応するためにも早急に利用規則を改正する必要に迫られました。

検討小委員会では、利用の実態を踏まえて現行規則の不備を補うことと、電算機による利用者サービスにも対応しうるということの二つの命題を満足させるべく努力を重ね、昭和61年3月31日に改正案を附属図書館長宛答申しました。この答申案は若干の修正の上、昭和61年7月21日開催の附属図書館商議会において承認されました。

成文化された利用規則の全文の紹介は別の機会に譲ることとし、今回は改正の要点についてのみ

紹介します。改正の要点は、次の四点に絞られるかと思えます。

- ①利用者の範囲をひろげ、本学の卒業生や元教職員も含めたこと。
- ②貸出の冊数や期間をふやし、利用上の便宜をはかるとともに、身分等による利用枠の区分を簡素化したこと。
- 一方で、個人による図書館資料の長期占有を防ぐために、延滞者に対し一時的な貸出停止措置を講ずることにしたこと。
- ③講座研究費等で購入された図書館資料を、教官または合同研究室等が利用する場合に対応して、「特別長期利用」という利用枠を設けたこと。（このことにより、従来の「部局備付図書」制度は廃止されます。）
- ④電算化により、入館や貸出の手続等が変更されるため条文を改めたこと。

次に新しい規則による貸出の区分、冊数、期間等の一覧表を掲げます。

なお、新しい利用規則の施行は本年4月を予定しています。

表1 貸出の区分, 冊数, 期間等

貸出区分 利用者区分	開架図書貸出			閉架図書貸出			特殊文庫貸出			短期貸出		
	冊数	期間(週)	更新(回)	冊数	期間(週)	更新(回)	冊数	期間(週)	更新(回)	冊数	期間(日)	更新(回)
教 授 師 助 教 講 義	2	3	1	100	6	5	20	6	1	1	3	1
名 譽 教 授 助 手	2	3	1	50	6	4	5	6	1	1	3	1
大学院学生 大学院研究生	2	3	1	50	6	4	5	6	1	1	3	1
学 生 研究生(学部) 聴講生(大学院, 学部) 職 員(教官を除く)	5	3	1	5	6	2	2	6	1	1	3	1
館長が必要を認め て許可した者	別に定める			別に定める			別に定める			別に定める		
対象図書	開架図書のうち, 第10条に定める図書及び短期貸出の対象図書を除くもの			閉架図書のうち, 第10条に定める図書及び特殊文庫貸出の対象図書を除くもの			狩野文庫, 大型コレクション その他館長が指定したもの			指定図書その他館長が指定したもの		

表2 貸出図書を延滞したときの貸出停止期間

延滞日数	貸出停止期間
11日から 30日まで	1 週 間
31日から 60日まで	3 週 間
61日以上	5 週 間

(注1) 冊数, 期間, 更新回数の数字は, 限度を示しています。

(注2) 貸出図書を期間内に返却しない場合, 次のとおり貸出を停止されます。

- (i) 貸出図書の返却を延滞している者は, 貸出冊数が限度内であっても新たな貸出を受けることができません。
- (ii) 延滞日数が一定の期間を超えた場合は, 表2に定めるとおり貸出を停止されます。
ただし, 延滞日数とは, 図書一冊ごとの延滞日数を合計したものをいいます。

貸出・返却手続の変更について

附属図書館では、昭和62年4月から図書の貸出・返却手続をコンピュータ処理に変更いたしますのでお知らせします（一部従来通りの方式も残ります。）

1. 利用証の交付

附属図書館（本館・分館）を利用する場合は利用証が必要となります。利用者登録申請書（図-1）に必要事項を記入し掛員に提出して下さい。

利用証（図-2）をお渡しいたします。

この利用証は、図書館利用の際に身分を証明するものとなりますので常時携帯し大切に扱って下さい。万一利用証を紛失したり、損傷した場合には直ちにカウンターに届け出て下さい。紛失した利用証は無効処理し、新しい利用証を再発行します。

（図-1）

利用者登録申請書				
氏名			学籍番号	利用者No.
身分	所属	学科	研究室	
		講座	内線	
現住所	〒		方 Tel.	
帰省先	〒		Tel.	
父兄氏名			備考	
申込	年	月	日	1. 変更 2. 再交付
受付				
太枠内のみ記入				
東北大学附属図書館				

（図-2）

利 用 証	
氏名	
所属	
身分	有効期限
東北大学附属図書館	

2. 貸出手続

図書を借りるときは借用する図書に利用証をそえて、カウンターに提出して下さい。掛員が図書に貼付してある図書ID（図-3）と利用証に印字された11桁の数字をOCR（光学文字読取）ハンドスキャナーで読みとることによって貸出手続は終了です。

（図-3）

東北大学図書

01860313978

附属図書館

資料によっては従来どおり借用証に記入していただくものもありますので、その旨ご承知おき下さい。

3. 返却手続

借用した図書の返却は、カウンターに返却して下さい。利用証を提示する必要はありません。

ただし、引き続き借りたいときは、利用証をそえて掛員に申し出て下さい。

注 意 事 項

1. 本利用証は図書館利用の際に必ず携帯し、係員の求めに応じ提示すること。
2. 資料の貸出、又は閲覧を受けるときには係員に提示のこと。
3. 本利用証は本人以外の利用を禁ずる。
4. 住所変更、又は紛失したときは、直ちに図書館まで届け出ること。
5. 有効期限が切れた場合、利用資格を失った場合は速やかに図書館に返却すること。

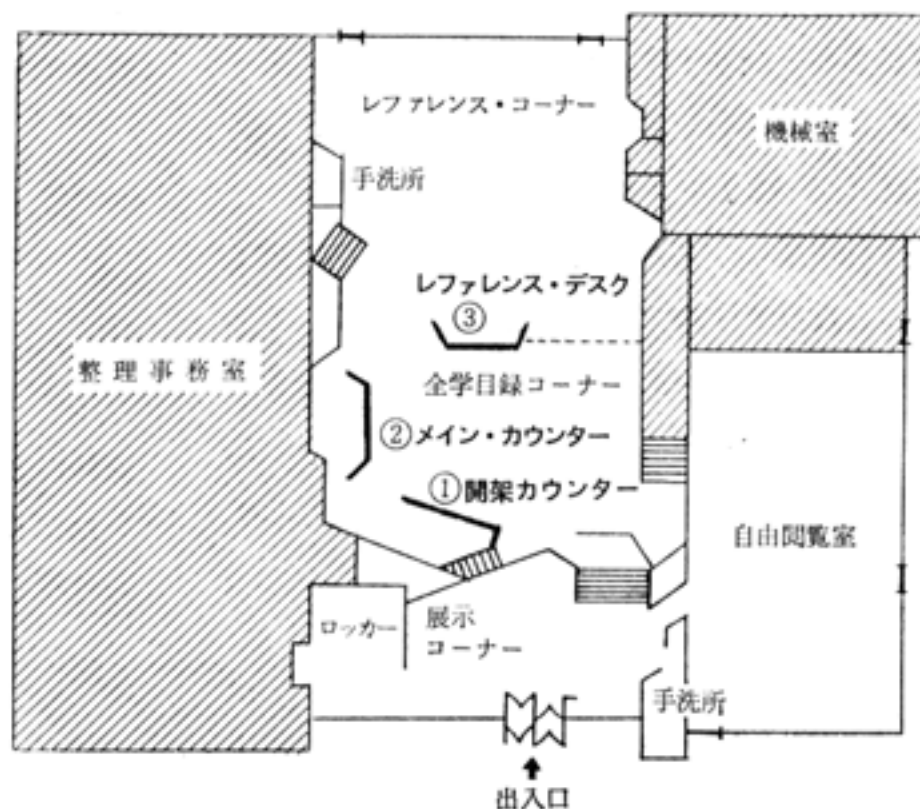
本館のサービス・カウンターの移動

本館では、電算化等新しい事態に対応した業務の再編と、利用者への各カウンターの連携サービスを容易とするために、昨年12月末右図のようにサービス・カウンターを近接移動させました。

各カウンターのサービス内容

- ①開架カウンター：開架図書の貸出・返納，利用証申込，購入希望図書受付
- ②メイン・カウンター：閉架図書の閲覧・貸出カード目録利用案内，一般利用案内，研究閲覧室案内コピーサービス（学内，学外）学内部局図書室利用受付他館利用受付
国立国会図書館貸出図書受付

- ③レファレンス・デスク：参考調査資料の利用案内，参考質問への回答（文献の所在，及び書誌データ確認）二次情報利用指導。



1 階 平 面 図

図書館業務電算化の進行状況について

本学の図書館業務電算化は、本年2月の稼働を目的に機種選定委員会による機種の選定，システム総括実行班とメーカー（SE）とによる基本設計書の開発・検討，詳細設計，プログラム作成テストへと進んで来ている。

ホスト機器（ACOS 610/10：機器構成図参照）が昨年12月下旬に搬入され据付調整を終えて，去る1月19日～20日の「学術情報センター」とのコンピュータネットワークの接続テストを終了した。一方，本館・分館・部局図書室等に設置され

た80台の端末機器も1月末でオンラインテストを終了した。

2月からは機器を使っの諸データの入力準備，機器の操作，業務の説明等々と本稼働までの諸準備と共に，学内の目録業務担当者に対しては「学術情報センター」と結んで，教育モードによる目録登録の実習を繰り返し行い4月からの本稼働に備えている。

システムの開発状況等については，「図書館業務機械化検討の状況」として既に紹介している部

分もあるので、それ以降の主な事項についてのみ報告したい。

○図書館業務電算化推進室会議：第24回（8/22）システム開発の現況（提案基本設計書の検討経過）、第25回（10/13）システム機能一覧、開発計画（案）の承認、第26回（11/26）「基本設計書」の承認、機器搬入・据付・調整日程等。

○図書館業務電算化説明会（12/19）分館を除く端末設置部局の図書担当職員、参加者20名、電算化業務の概要（処理の構成・蔵書検索・所在管理・雑誌業務処理・受入業務処理）、予算コード、所在コードの設定、カード体目録の出力、機器搬入・据付・調整日程等。

○システム開発部会

総括実行班：第1回（7/19）～第41回（12/12）に亘り電算化実施体制並びにシステム開発等についてメーカー（SE）との検討結果に基づいて検討確認を行い基本設計書を作成。

業務別検討班：8月～12月に亘り各サブシステム（雑誌、受入、目録、閲覧・検索）ごとに総括実行班と調整をとりながら各業務と密着した検討。

○日本電気との打ち合せ

定例会議：第3回（8/19）システムの開発体制、要望事項に対する確認、第4回（9/19）要望事項に対する回答説明、第5回（9/30）システム機能一覧、開発計画（案）の提示、基本設計書の基本構想の提示等、第6回（11/11）要望確認事項に対する回答説明、利用者管理、障害対策、自

動運転等、第7回（11/28）基本設計書の承認方法、SEの常駐、蔵書点検（BM端末）等、第8回（12/10）学術情報センターとの接続日程・スケジュール、システムの運用時間帯等、第9回（12/18）雑誌管理のスケジュール変更、ディスク・アロケート状況、目録端末の増設メモリー、N6500の据付、稼動調整の日程、第10回（1/22）開発計画の改訂、連絡用文書（プログラム関係）、プログラムの作成状況、学術情報センターとのコンピュータネットワーク接続テスト結果等。

SEとの打ち合せ：9月～11月末日までの間、30数回に亘って総括実行班の各システム担当者とSEとが基本設計書作成のためのシステム開発検討。

なお、最後になりましたが、昨年12月より本年1月にかけての端末機器の設置に伴う設備工事等については、設置部局は勿論のこと関連部局の関係者に対して大変ご迷惑をかけました。しかしながら本学図書館業務電算化に対する皆様方の熱い期待と絶大なるご支援とご協力により、設置工事万端が予定通り完了いたしましたことをご報告し、ここに厚くお礼を申し上げます。

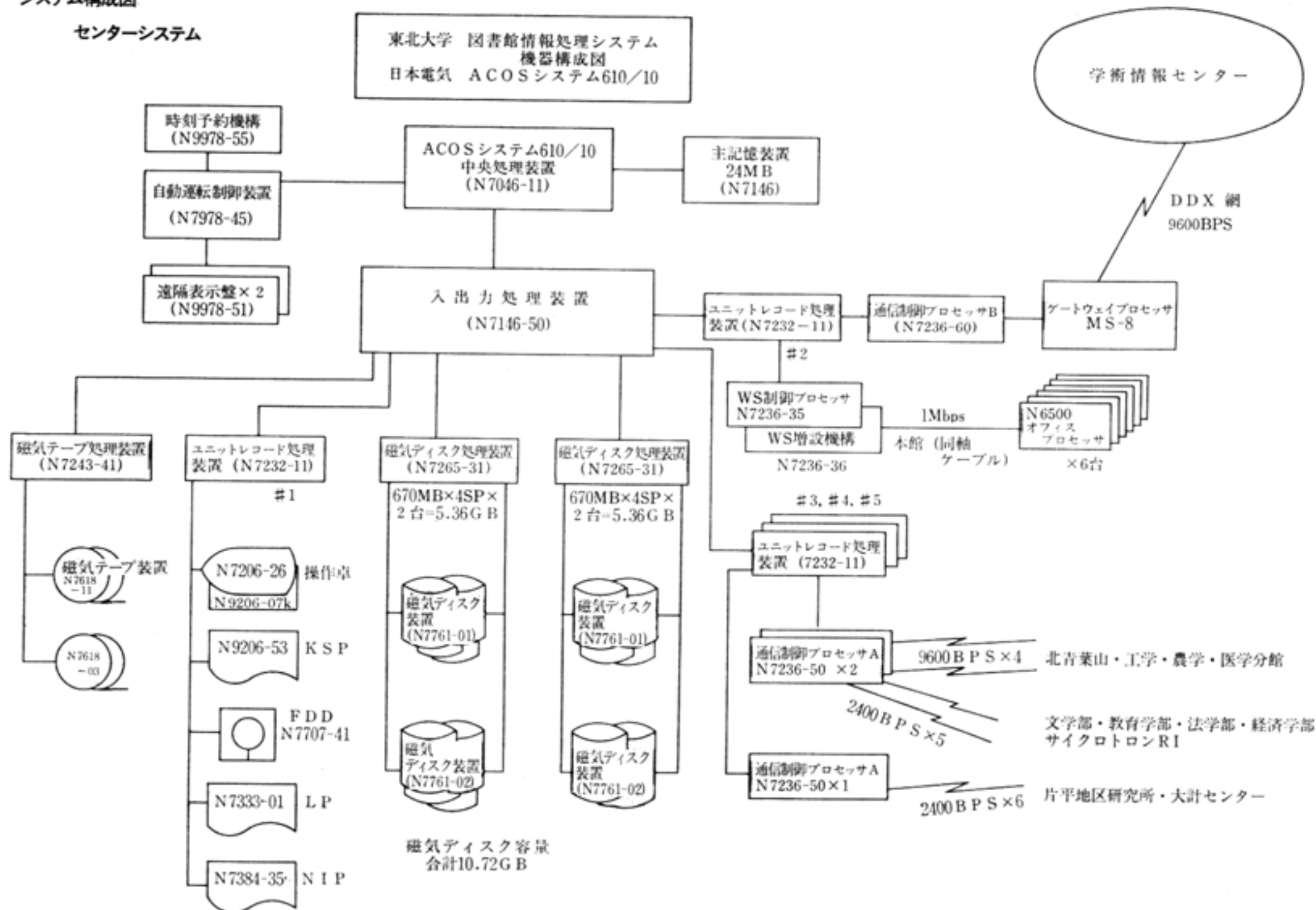
（図書館専門員）



コンピューター室

システム構成図

センターシステム



目録システム講習会開催

本学図書館情報処理システムは本稼動に向けて準備が進められている。

業務電算化に対応する目録業務は、学術情報センターへの書誌・所在情報の登録、ならびに学内総合目録データベースの構築である。これを実施するにあたっての必要な基礎知識を修得するため、全学目録業務担当者を対象に標記講習会を昨年11月下旬から週2回（同一内容で）行っている。

研修内容、方法及び講師は右記のとおりである。

○内容、方法

- (1)講義と質疑：昭和61年11月～12月
- (2)ワークシートによる目録演習：昭和62年1月
- (3)端末機による目録演習：昭和62年2月～

○講師

阿部佳市（本館）
 菊地房雄（医分）
 松井好次（本館）
 米沢 誠（本館）

なお、電算化による目録業務は昭和62年度受入図書から行う予定である。

昭和61年度第2回附属図書館総合研修会

去る2月17日、本館大視聴覚室を会場に北海道大学附属図書館学術情報課長山田常雄氏を講師に迎え、「学術情報センターシステムとローカルシステム—北大オンラインシステムを事例として—」のテーマで御講演いただいた。

山田氏は、一般に図書館システムの設計に際しては、ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアの3要素のバランスが必要であるが、特にヒューマンウェアを重視すべきである。また、ハードの性能を超える機能を求める傾向があることを指摘し、その使い方にも自ずと限界があることを認識すべきである。学情センターの発足は、従来のハウスキーピング処理から目録処理への転換と検索を中心に据えた点でその意義は大きく、学情センターと対応した各大学のシステム作りは、オンラインリアルタイム処理の特徴を生かすべき

であって、バッチ処理によるハウスキーピング時代の思想を持込むことは避けた。北大では学内のあらゆる利用者の端末利用を最重視した、として北大の実情を紹介された。

また、図書館電算化システムは即省力化には必ずしも直結しないが、システムの実現により従来果たせなかったサービスが、新たな人的資源を投入することなく拡張できるところに特徴がある、と結ばれた。

北大システムは極めて明快な思想の下に設計された、特色あるシステムであるとの印象が深く、システム開発中の本学にとり、多くの示唆に富むもので、繁忙期にもかかわらず約70名の参加者を得て盛会であった。

（総合研修委員会）

昭和61年度文部省指定高額外国図書について

標記について、この度文部省より下記資料の購入予算が認められ、購入を決定したのでお知らせします。

資 料 名	U. S. Congressional Publications ; CIS Microfiche Library, Complete Collection, with CIS/Index. 1982—1985. (米議会・委員会刊行物総集成マイクロフィッシュ版, 索引共)
備 考	1981年以前の部分は、昭和57—59年度の標記予算にて購入済み。本館マイクロフォーム室に配置。

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施されている大学図書館実態調査のうちの主な項目をとりまとめたものである。表1は昭和58～60年度の本学の概況、表2は昭和60年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和 58 年度	昭和 59 年度	昭和 60 年度
蔵 書	和	1,246,094 冊	1,278,479 冊	1,318,423 冊
	洋	1,197,145	1,234,830	1,271,697
	計	2,443,239	2,513,309	2,590,120
所 蔵 雑 誌 数	和	22,651 種	22,768 種	22,837 種
	洋	29,067	28,838	28,997
	計	51,718	51,606	51,834
年 間 図 書 受 入 数	和	35,231 冊	32,464 冊	39,965 冊
	洋	41,130	37,703	36,959
	計	76,361	70,167	76,924
年 間 雑 誌 受 入 数	和	10,146 種	9,835 種	9,951 種
	洋	11,482	10,928	10,825
	計	21,628	20,763	20,776
象 奉 者 仕 数 対	学 生	13,385 人	13,608 人	13,927 人
	教 官	2,436	2,441	2,107
一 奉 人 仕 当 対 象 者	蔵 書 数 (冊)	154	156	162
	年間図書受入数(冊)	5	4	5
	図書館資料費(千円)	51	48	47
図 書 館 職 員 数	総数	166 人	166 人	154 人
	専任	100	96	91
	臨時	66	70	63
図 書 館 職 員 1 人 当 り 奉 仕 対 象 者 数 (人)		95	96	104
図 書 館 資 料 費 (千円)		808,109	767,046	756,905
大 学 総 経 費 (千円)		54,331,045	56,159,924	54,826,025

表 2

部 局		職員数 ()内は 定員外 職員 内数	蔵 書 (昭和60.3.31現在)						昭 和 60 年 度 受 入 数						昭 和 60 年 度 経 費					施 設 (昭和60.5.1現在)				
			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				運営費 (国庫給 与を除く)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可 能冊数 (冊)
			和	洋	計	和	洋	計	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
本 館	本 館	62(23)	520,791	262,849	783,640	11,210	11,937	23,147	14,353(7,021)	8,619(5,888)	22,972(12,909)	2,009(522)	969(623)	2,968(1,145)	94,898	41,898	0	136,796	132,106	938	12,480	2,933	4,552	1,047,028
	文	2(1)	148,972	91,593	240,565	813	705	1,518	4,936(4,284)	3,458(2,820)	8,394(7,104)	533(221)	499(488)	1,032(709)	46,593	9,841	309	56,743	3,821	4	68	15	10	4,972
	教	2(1)	38,948	25,000	63,948	723	313	1,036	900(649)	723(535)	1,623(1,184)	475(108)	238(233)	713(341)	9,410	5,548	0	14,958	3,814	20	268	89	90	11,944
	法	3	69,899	89,808	159,707	808	583	1,391	4,707(1,437)	2,190(1,973)	6,897(3,410)	559(167)	460(426)	1,019(593)	40,104	7,138	0	47,242	4,379	33	699	65	444	59,667
	経	4(1)	133,373	128,144	261,517	1,324	835	2,159	3,119(1,846)	2,737(1,670)	5,856(3,516)	803(122)	408(346)	1,211(468)	33,270	10,755	0	44,025	6,816	23	259	45	125	27,472
	農 研	2	21,742	9,878	31,620	383	273	656	421(293)	240(60)	661(353)	253(45)	235(71)	488(116)	2,436	3,999	0	6,435	678	10	206	18	160	32,638
	選 研	2(1)	6,213	12,342	18,555	251	265	516	213(50)	404(122)	617(172)	135(44)	150(105)	285(149)	2,942	7,492	0	10,434	2,152	16	246	37	144	25,972
	科 研	1	3,883	12,571	16,454	282	135	417	44(23)	321(56)	365(79)	257(10)	109(65)	366(75)	1,245	7,322	0	8,567	3,444	20	574	58	375	36,556
	連 研	2(1)	10,538	14,696	25,234	84	249	333	276(237)	383(179)	659(416)	288(32)	164(114)	452(146)	3,948	7,494	26	11,468	5,191	8	212	27	163	27,125
	通 研	2	5,537	13,508	19,045	125	246	371	202(49)	590(122)	792(171)	284(66)	251(174)	535(240)	2,533	12,743	4	15,280	1,549	10	335	59	247	28,277
	非 水 研	2(1)	4,966	16,610	21,566	80	219	299	173(63)	653(157)	826(220)	46(30)	154(139)	200(169)	4,060	13,861	0	17,921	3,564	28	331	63	252	32,972
	応 情 研		490	1,268	1,758	3	41	44	29(29)	40(40)	69(69)	3(3)	22(22)	25(25)	670	729	0	1,399	79					
	マイクロ	2(2)	696	2,096	2,791	4	32	36	16(11)	196(25)	211(36)	11(11)	37(37)	48(48)	768	4,818	0	5,586	7,038	5	98	12	35	5,778
大 計	1(1)	1,807	1,521	3,328	30	31	61	69(61)	69(33)	138(94)	23(23)	26(25)	49(48)	666	1,173	0	1,829	2,824	1	59		46	3,889	
計	87(32)	967,844	681,884	1,649,728	16,120	15,864	31,984	29,458(16,053)	20,622(13,680)	50,080(29,733)	5,679(1,404)	3,712(2,868)	9,391(4,272)	243,533	134,811	339	378,683	177,455	1,116	15,835	3,421	6,643	1,344,290	
医 学 分 館		22(12)	117,145	179,113	296,258	1,669	4,357	6,026	3,332(2,839)	4,848(4,473)	8,180(7,312)	1,084(442)	2,304(1,922)	3,388(2,364)	31,694	80,701	0	112,395	48,429	327	4,025	256	2,190	418,222
北青葉山分館		13(6)	52,904	208,166	261,070	1,899	5,817	7,716	1,852(818)	5,509(1,150)	7,361(1,968)	1,130(795)	2,705(1,935)	3,835(2,730)	23,599	74,329	0	97,928	36,051	248	3,356	1,140	1,310	296,194
工 学 分 館		21(9)	116,654	122,780	239,434	1,626	1,592	3,218	3,580(2,759)	3,671(1,530)	7,251(4,289)	1,132(300)	1,154(860)	2,286(1,160)	37,649	65,176	578	103,403	28,562	426	4,423	1,492	1,008	224,806
農 学 分 館		6(2)	48,249	35,984	84,233	1,245	830	2,075	1,296(848)	1,134(299)	2,430(1,147)	674(107)	608(272)	1,282(379)	8,738	22,478	276	31,492	11,727	116	1,279	326	418	71,444
全 研		5(2)	15,627	43,770	59,397	278	537	815	447(127)	1,175(291)	1,622(418)	252(65)	342(192)	594(257)	8,176	23,708	1,120	33,004	5,642	30	433	28	323	56,767
総 計		154(63)	1,318,423	1,271,697	2,590,120	22,837	28,997	51,834	39,965(23,444)	36,959(21,423)	76,924(44,867)	9,951(3,113)	10,825(8,049)	20,776(11,162)	353,389	401,203	2,313	756,905	307,866	2,263	29,351	6,663	11,892	2,411,723

※ 教養部、情教セ、学生部(保セ)は本館に含む。

お知らせ

1. 卒業（修了）及び退職・転勤予定の方へ

一貸出図書の返納について一

昭和61年度を以て、卒業（修了）及び退職・転勤等により本学から異動される予定者で、附属図書館（本館・分館）から図書館資料を借用している方は、期限内にすべてご返納ください。返納が遅れますと、他の利用者にたいへん不便をかけることになりますので、よろしくお願いいたします。借用図書の内訳を確認したい場合やその他返納手続等について不明な点がありましたら、本館または分館の該当カウンターに問い合せください。

なお下記事項には特にご注意ください。

※個人名義で借用された図書をそのまま研究室に残したり、名義の書換なしに同僚や後輩の方に預けたりせずに、必ず返却の手続をおとりください。

※退官を以て本学の名誉教授になられる方は、引き続き図書の貸出を受けられますが、事務処

理上一旦返納いただいた上で改めて借用手続をおとり願うことになります。

2. 臨時休館について

図書館業務電算化準備作業及び館内整備のため、下記日程により臨時に休館いたします。利用者の皆様には利用上大変ご不便をおかけいたしますがご協力のほどお願いいたします。

記

休館日 昭和62年3月4日(水)～3月5日(木)
昭和62年3月23日(月)～3月28日(土)

3. ブック・ディテクション・システムの導入

本館では3月に米国スリーエム社のブック・ディテクション・システム（図書の無断帯出警告システム）を導入し、4月から稼働の予定です。このシステムは既に工学分館（昭和55年度）、北青葉山分館（昭和60年度）で導入済みです。図書を借出すときはカウンターでの手続をお忘れなく。

人事異動

発令年月日	前官職	氏名	備考
61. 12. 14	医学分館事務補佐員	佐伯陽太郎	辞職

編集後記

◇いよいよ東北大学図書館も電算化元年を迎えた。機器類がどんどん運び込まれ、あれよあれよという間に事務室は一変した。カードボックスや書棚が随分消え、モダン(?)なオフィスのようなのである。遠い海鳴りのように聞いていたデンサンカの波の音が、今や現実となってどっと押し寄せてきた。

◇事務部長の年頭の言葉は「三気」であった。

「やる気」「根気」「負けん気」を、ということである。この三気と元気でもって、変動の波を乗りきっていききたいものである。

◇調査研究室長（記念資料室副室長を兼任）の原田先生が、この3月で大学を去られる。先生は、木這子の前身「図書館通信」を発行され、館報の礎を築かれた。この「木這子」にも、「記念資料室だより」その他有益な記事を寄稿されて、健筆を揮われた。先生の長年のご協力に感謝すると共に、今後のご活躍を祈りたい。

◇「木這子」は、主として図書館活動を内外に知らせることを目的に、11年前にスタートした。

図書館は、新しい時代の波に洗われつつある。

「木這子」も変身を迫られているのではなかろうか。

限りなく降る雪何をもたらすや 三鬼

東北大学附属図書館報「木這子」 第11巻 第4号（通巻第44号）発行日 昭和62年2月28日

編集委員長 及川恵美子 編集委員 小野和夫、湯本一義、芳賀博、佐藤京

発行人 松川 衛 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 222-1800 (2408)